



9月といえば、「十五夜」。今年は9月13日がその日にあたります。

9世紀後半に中国から伝わり、平安時代の貴族に広まりました。当時は、水面や盃のお酒に映った月を愛でたそうです。そして、江戸時代に庶民にも広まり、収穫祭や初穂祭のイベントとして楽しめるようになりました。

この時期、稲穂はまだ穂が実る前であることから、穂の出たすすきを稲穂に見立てて飾ったと言われていました。

よいお天気で迎えられますように。

DUCTILE TIMES編集部

## 非開削工法をご紹介します

市街地や密集した住宅街、軌道や河川の横断など開削での水道管工事が行えない場合に、路面を開削せずに水道管を布設することができるのが、非開削工法です。

非開削工法には、①推進工法②さや管内推進工法※③パイプ・イン・パイプ工法④トンネル・シールド内配管工法の4種類があり、現場の状況に合わせて工法を選択可能です。

※②と③を総称しパイプ・イン・パイプ工法ということもあります。

### 推進工法

管本体を地中に直接押し込んでいく工法。口径や土質、管路に要求される耐震性など、諸条件に応じた最適な管種が選択可。十分な強度を持ち、接合も容易



### さや管内推進工法

推進施工した鉄筋コンクリート管などのさや管の中にダクトイル鉄管を推進させる工法



### パイプ・イン・パイプ工法

既設管に小さい口径のダクトイル鉄管を挿入し、老朽管路を更新していく工法



### トンネル・シールド内配管

事前に築造したトンネルやシールドの内部にダクトイル鉄管を布設していく工法



## 非開削工法の現場から



静岡県  
静岡市  
上下水道局様

本市では、異常渇水時に二つの主要水系の水を相互に運用できるように、管路や施設の整備事業を進めています。

この度、送配水本管路の新設工事において、総区間延長15.4kmの内、2.8km区間に非開削工法(さや管内推進工法)を採用し、一部区間では呼び径2600のコンクリート管内に呼び径500と400(それぞれ2系統、1系統)のダクトイル鉄管を布設しました。

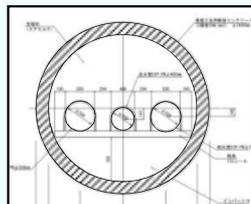
非開削工法を採用することで、交通量の多い道路の交通渋滞を軽減するなど、市民生活への影響を最小限に抑えることができました。

今後、管路更新を進めていく上で、有効な工法だと考えています。

(静岡市上下水道局 水道部水道管路課 計画係 主査 村上雅良様)



↑立坑内に吊り下ろされるダクトイル鉄管



↑呼び径2600のコンクリート管内に3本のダクトイル鉄管を布設



大阪広域  
水道  
企業団様

当企業団では、事故時や災害時のバックアップ能力を強化するため、送水管路の二重化(千里幹線バイパス管:総延長約6.3km)を進めています。本工事では、開削工法にて施工できない一部区間において、非開削工法(さや管内推進工法)を採用し、内挿管については、PN形(呼び径800・1000)を布設しています。

現在、幹線道路下で施工していますが、交通渋滞の緩和を図ることができ、地域住民の皆様への負担軽減にも繋がっています。非開削工法は非常に有効な工法であると感じています。

(大阪広域水道企業団 北部水道事務所 整備課主査 平田純一様)



↑立坑内に吊り下ろされるダクトイル鉄管



↑挿入されるダクトイル鉄管